

# 建廃協NEWS91号

## 《講演の集い開催》



レポート：光洲 山下

4年ぶりに11月9日(水)、日本教育会館一ツ橋ホールにて、令和4年度「講演の集い」を開催しました。講演会は180名、懇親会は130名にご参加いただきました。今回のテーマは建廃資源循環の追求～サステイナブルな未来へ～、講演内容は、3部構成で行われました。

1部は環境省 環境再生・資源循環局 総務課リサイクル推進室 室長補佐 江藤文香様に「建設廃棄物に関わるプラ新法について」と題して講演を頂きました。

廃プラスチックの再資源化、排出事業者による排出の抑制、再資源化の基準や、排出事業者による再資源化事業についてお話いただきました。



2部は公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団 再生品認証事業推進チーム チームリーダー 山脇敦様に「産業廃棄物処理事業振興財団の建設廃棄物における資源循環への取組」と題して講演を頂きました。

再生品認証事業の概要から申請審査の内容について、排出事業者様のニーズのご説明がありました。処理業者の選定の際に優良認定業者かどうか、それに続いて遵法性・リサイクル率を重視しているというアンケート結果が出ていました。



3部は一般社団法人 日本建設業連合会 建築副産物部会 部会長 高崎英人様に「日建連による廃プラ課題への取組」と題して講演を頂きました。

現在の建設現場にて発生する廃プラスチックの現状、今後かわりの深い廃プラ新法について、これからの廃プラスチックの細かい分別について詳しくお話いただきました。

建設現場に限らず、身近になっている廃プラ問題。スーパーのレジ袋有料化、紙製ストローの使用、海洋廃プラスチック問題に向けて、個人から自治体、企業と幅広く取組み、それが当たり前を感じるようになりました。

喜山倶楽部にて、立食での懇親会もコロナ感染に注意を払い、開催されました。理事長挨拶から、日建連の上坪様に乾杯の音頭を頂き和やかに始まりました。今年度発足した北海道支部についての案内も山本理事より行われました。最後は伊勢副理事の一本締めで散会となりました。

